



sponsored by **TOWNWORK**

ファイナリストインタビュー

Campus Life+1 に出て変わったこと

昨年度開催された「Campus Life+1 2018」において、約4万1千通の応募の中から見事選ばれたファイナリストたちのその後をインタビュー。Campus Life+1 を経てどのように彼らが変わったのか聞いてみました。

自発的に動くことの大切さを実感 部活の時間がより濃密に

チームワークをよくするため
率先してメンバーに話しかける

「私はどちらかというと内気な性格で何をするのも受け身な方でした。でも、キャンパスライフ+1に出場したことで、自分の性格が大きく変わりました」

そう話すのは、岐阜県立岐阜商業高校の吹奏楽部に所属する高橋さん。

昨年の夏、記録的な大雨により活動ができなくなってしまうという中国地方の吹奏楽部を、コンサートリーダーで支援したいとキャンパスライフ+1の高校生部門に出場。見事特別賞を受賞した。そしてこのイベントに出場したことが、今の部活において活かされていると言う。



高橋 梨紗さん(18歳)
岐阜県立岐阜商業高校3年生

岐阜県出身。高校では国際コミュニケーション科に所属。英語はもちろんグローバルな視点でのマーケティングなども勉強している。

「吹奏楽においてチームワークは必要不可欠です。しかし、私たち3年生は静かなメンバーが多く、OBやOGから練習のときに活気がないと心配されていました。キャンパスライフ+1に出場し、自発的に動くことの大切さを実感した私は、練習中も率先して声を出し、問題があれば解決できるように働きかけるなど、向き合う姿勢が大きく変化しました」

そんな高橋さんの努力は実を結び、今ではお互いに意見をぶつけ、充実した練習ができるようになったそう。部活の体制の変化により、まだコンサートリーダーは実現できていないが、必ずやり遂げたいと語ってくれた。

練習に打ちこむ高橋さん。担当の楽器はクラリネット。今はパートナーを任されている。吹奏楽部としては来年の1月まで活動を続ける。受験との両立はハードだが、どちらも疎かにしないよう毎日頑張っている。



Campus Life+1 で得たもの

「ファイナリストに選ばれた大学生の方々のプレゼンを聞き、自発的に行動することの大切さを実感しました。また、今までは同じ吹奏楽のメンバーとしかほぼ交流はありませんでした。高専生や大学生の方々と出会い、自分の視野が広がった気がします」



応募資格

●現在、大学(院)生、短大生、専門学校生、高校生、高等専門学校生、高等専修学校生の方(20歳未満の方は保護者同意の上ご応募ください) ●日本国内に在住している方。国籍は問いません。 ●団体での応募も歓迎(最終選考出場は1チーム5人までとする) ●2020年3月に東京にて開催予定の最終選考に参加いただける方※詳細は一次選考合格の方へご連絡の際にお知らせいたします。 ●過去に「Campus Life+1」にご応募いただいた方の応募も可能です。

注意事項

●応募における個人情報は主催者及び関係会社にのみ開示され、今回の企画以外に使用することはございません。 ●本人(チーム/団体)情報に誤りがある場合は、合格が取り消される場合があります。 ●可否や選考基準に関するお問合せにはお答えできません。ご了承ください。 ●選考通過者の方にはこちらからご連絡いたします。

ご応募はコチラから! 応募はWEBサイトで受け付けています。

右下のURL、2次元バーコードからサイトにアクセスし、必要項目をご記入ください。

みんなの夢を
随時更新

エンタク <http://entac.jp/>

応募期間: 2019年8月1日(木) ~ 2020年2月2日(日)



主催: **EVANI!**
enjoy talking campus

協賛: **TOWNWORK**

お問い合わせ先: 学生コミュニティサロン「エンタク!」
TEL052-241-8100
(受付時間/平日9:00~18:00)

RECRUIT